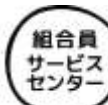


総代通信 2022年度 V o l . 5

2022年7月18日コープ自然派奈良理事会 発行



フリーダイヤル 0120-408-300

携帯電話(無料通話プランなし) 0570-063-008

携帯電話(無料通話プランあり)・IPフォン 088-603-0080

受付時間 ①～⑤ 8:30～20:00

総代キャラクター トマトちゃん

第20回通常総代会 終了のお礼

暑い日が続きますが、皆さまいかがお過ごしでしょうか。

6月18日(土)第20回通常総代会が奈良県文化会館にて開催され、皆さまのご協力をおもてして全議案賛成多数により承認いただきました。無事終了できましたことを心よりお礼申し上げます。

総代総数 198名

出席総代数 179名 ※議長を除く

(本人出席19名、代理人出席2名、書面議決書158名)

第1号議案:賛成 多数 反対 0票 保留 6票

第2号議案:賛成 多数 反対 4票 保留 8票

第3号議案:賛成 多数 反対 1票 保留 7票

第4号議案:賛成 多数 反対 0票 保留 5票



次期総代のご案内

現総代の任期は2022年9月30日までとなります。次期総代運営について、下記の通り年間スケジュールを考えております。引き続きお力をお貸しいただけますようお願い致します。ぜひお友だち(7/3以前から組合員である方)もお誘いください。

右のQRコードから入力フォームに記入・送信してください(締切:9/30金)。
または下記にご記入の上、切り取ってご提出ください。



2022年10月1日

総代任期開始

2022年10月

交流会(大和郡山、奈良、橿原の3ヶ所で開催予定)

2022年秋～冬

研修:事業連合見学(予定)

2023年5月

議案説明会(大和郡山、奈良、橿原の3ヶ所で開催予定)

2023年6月16日

第21回通常総代会(予定)

2023年9月30日

総代任期終了



研修では、事業連合と、同じ敷地にあるセットセンター、検査室、コープ食材、コープブレッドファームなどを見学予定です。

キトリ

生活協同組合コープ自然派奈良 選挙管理委員会 御中

総代立候補届

定款第45条、選挙規約第6条にもとづき総代に立候補します。

※総代選挙規約第6条:被選挙権を有する全ての組合員は、自由に立候補し、又は被選挙権を有する組合員の中から候補者を推薦することができる。

氏 名

お住まいの市町村

※立候補届はOCR用紙と一緒にセロテープ等で留め、カタログと混ざらないようにご提出下さい。

締切:9/30(金)

第20回通常総代会にお寄せいただいた主なご意見への回答

◆第1号議案

Q1. おすすめしても配送料がネックとなることが多いので、無料キャンペーンなどなにか考えていただきたい。

A1. 配送料は大切な財源であり、配送料としていただかない場合は商品代金に転嫁されることとなります。配送料を別途いただく意味を損なわない範囲で、キャンペーンなど考えていきたいと思っています。また、高齢化社会の中で購入を続けていただくためのサービスの必要性も感じています。割引サービスなど検討していきたいと思っています。

Q2. 食材セットをよく利用するのですが、昨年豚肉のけもの臭が気になります。

A2. 自然豚の飼育がアニマルウェルフェア対応の豚舎になってから、けもの臭がなくなったという逆のお声もいただいています。気になられた際に個別にお問合せいただければ対応いたします。

Q3. 組合員の世代や地域(市町村)の情報も載せてほしい。どの層に働きかけるかの判断材料になると思います。

A3. 年代別構成比は

- ・10・20代 2.5%
- ・30代 24.5%
- ・40代 32.5%
- ・50代 16.8%
- ・60代 11.5%
- ・70代以上 12.1%

となっています(生年月日登録のある組合員のみ対象)。地域別組合員数は議案書のP61に掲載していますのでご参照ください。

Q4. 組合員数16,258名とありますが、常時注文しているのは何%くらいですか。またしばらく注文がない方へのアプローチは何かされていますか。

A4. 組合員のうち、カタログをお届けしている人(配布率)が52.2%、そのうち注文して下さる人(受注率)が80.1%、つまり組合員のうち注文する人(利用率)が41.8%となっています。新しく組合員になってすぐの段階で「何を買えばいいかわからない」と感じると注文しなくなる傾向がありますので、新規組合員向けの取り組みを強化しています。しばらく注文がない方へのアプローチは年に何回か再開の呼びかけをするにとどまっています。また、地域での仲間づくりが継続のモチベーションになりますので、組合員活動に参画して下さる組合員を増やしたいと考えています。

Q5. ワーカーズコープとは何ですか。

A5. 説明が不足しており申し訳ありません。労働者協同組合のことで、生協が「消費者が出資、利用、運営する組織」であるように、労働者協同組合は「労働者が出資、労働、運営する組織」となります。今年10月に労働者協同組合法が施行され、法人として活動できるようになるため、新しい働き方を模索するひとつの方法として注目されています。コープ自然派奈良でも地域課題解決のひとつの手段としてワーカーズコープ設立を目指しています。

Q6. プチパーティの今後の予定は?今のニーズに合っていないのであればなくしても良いと思う。

A6. コロナの影響で試食会が難しくなったこと、また費用対効果の面も考えて現在休止しています。ニーズに合った新たな形での再開を模索中です。

Q7. 食材セットの手軽さや「楽しくて美味しい」というところをもっと宣伝するべきだと思います。

A7. これまで製造可能数に限界があり、積極的に宣伝ができずにいました。製造体制の整備に合わせてキャンペーンなどを行っていきたく考えています。

Q8. 卵パックのモールド化実現に感謝しています。割れがないので安心して買えます。増産を期待しています。

A8. 生産者との協議、新たな生産者の開拓など一歩一歩進めていますので、いましばらくお待ちください。

Q9. リサイクルは、事業で出たものをすべて回収し、それを見える化するのを望みます。

A9. 少しずつ取り組みを進めているところです。まほろば通信での発信も増やしていきます。

Q10. 食料危機に備え、自然派Styleの安全でおいしい代替肉を開発してほしい。

A10. 国産オーガニックと有機農業を推進することが1番の食料危機への備えと思って取り組んでいます。BLOF理論に基づいた有機農業を地元の資材を使って行うことで、高栄養の農産物を多収穫でき、食料危機への大きな備えになります。代替肉としては、大豆ミートの取り扱いを増加し、食材セットでも商品化しています。ぜひご利用ください。

Q11. サービスセンターに届いた声がどのように共有・検討され、どのくらい実現できたのか知りたいです。商品に関する意見・要望と回答は通信に掲載されますが、商品以外の意見・要望も掲載してはいかがでしょうか。

A11. サービスセンターに届く声の大半は、個人的な問い合わせや要望であり、その都度対応・回答しています。重大な案件については生協気づき会議や、事業連合CS会議などで共有し、同じミス等を繰り返さないように周知しています。組合員の声を反映できた例としては、おせちの無添加化、たまごパックのモールド化などがありますが、実現までに何年もかかるケースが多く、どのくらい実現できたか定量的に測定するのは難しいのが現状です。

◆第2号議案

Q12. 2021年度は脱退者数が多かったが、低減のための方策が検討されていないと思います。もう少し住んでいる地域の発展につながるのが見えると良いと思います。

A12. 昨年は出資配当のご連絡がきっかけで脱退された方が多くありました。事業、組合員活動、ワーカーズ設立など様々な方法で地域課題解決のために力を発揮し、組合員でいることのメリットを高めていければと思います。

Q13. 食品表示問題に関して、「国内製造」という表示が分かりにくい。独自の表示や原材料の産地表示など、分かりやすい表示をしてほしいです。

A13. 食品表示基準に基づいた表示を行っていますが、より分かりやすい表示をめざしメーカーとも協議していきます。

Q14. お米の利用拡大のために、米粉パンを増やしてはどうでしょうか。

A14. 秋の「コープ自然派だいすきキャンペーン」にむけ米粉メロンパンを開発中です。

第20回通常総代会にお寄せいただいた主なご意見への回答

Q15.大和ひみこ米について、売れば売ほど損をする売り方ができないか。安く売って、知ってもらえる機会にしたいです。

A15.損をするのはなかなか難しいですが、昨年は玄米の販売や広報強化などを行い、今年は体験田は無農薬での栽培に挑戦するなど、少しずつチャレンジを広げています。知ってもらう努力を続けていきます。

Q16.安易に理事を増員するのではなく、他の自然派のようにエリアコーディネーターを養成したほうがよいのでは。企画に参加できない多くの組合員が活動の意味・意義に共感できるような運営を望みます。

A16.エリアコーディネーターの養成を含め、より多くの組合員に活動に参画してもらえる運営を模索していきます。

Q17.職員の香害問題、洗剤を石けんにするのが難しいようであればせめてマイクロカプセルを使用していない洗剤に変えてもらうだけでも効果が大きいと思います。

A17.なかなか改善が進まず申し訳ありません。配送での取り組みも進めています。組合員のおうちでついた香りがとれないケースも多く見受けられます。石けん派生協として、職員にも組合員にも石けん利用を進める取り組みを引き続き行っていきます。

Q18.香害についてスタッフの無香化など数値目標をもって取り組んでほしい。

A18.どのような数値目標が可能かお知恵を貸してください。

Q19.紙はニオイを吸着しやすいので、総代資料・通信もオンライン化してほしい。

A19.総代通信はホームページに掲載しました。バックナンバーも含め公開しましたので、ご活用ください。



Q20.安心安全なものを供給するためには仕方ないことかもしれませんが、価格が少し高いです。以前「夢が広がる」にバナナの余剰分を大量に子ども食堂にお渡ししていると書いてあったが、適量の仕入れをしていただきたい。

A20.コープ自然派は良いものを適切な価格で販売するため利益率も低く設定しており、決して高くはないと考えています。バナナのようにロット発注でどうしても余剰が出してしまう商品もありますが、最大限適正な発注を行います。

Q21.フードロスを少なくするための情報(B級や訳あり商品など)をもっと発信してください。

A21.おもにオンラインで発信していますのでご覧ください。

Q22.新センターの組合員ルームは化学物質や電磁波対策はできていますか。

A22.化学物質対策としては床を板に、壁を漆喰にしてできるだけ自然素材を取り入れる予定です。電磁波対策については現在検討中です。

Q23.太陽光パネルについて、原料のレアメタル採掘現場の環境破壊や人権侵害、電磁波、有害廃棄物問題などたくさん問題があるため反対です。再エネ導入だけにとらわれず、節電や電気ではないエネルギーなどについてみんなで考えていきたいです。

A23.議案書に同封してお送りした「太陽光発電パネル設置について」という別紙のとおり、一定規模の冷凍・冷蔵設備をもち日々電気を消費する生協として、ベストではなくてもベターな選択肢として太陽光パネルを検討しています。太陽光パネルよりベターな方法があるのであれば、議論し決定していければありがたいです。

Q24.太陽光発電設備設置に反対です。ソーラーについて学ぶ程に、今ある火力発電を大切に使うのがいいのではと思います。ソーラーを使用するときはCO2を出さないかもしれませんが、製造時に大量の電気を使い、水や空気を汚し、放射性物質を出します。日本で脱原発しても他国を犠牲にしては意味がないと思います。

A24.火力を大切に使うというのは具体的にどうすることでしょうか。また、火力発電所製造時や、化石燃料採掘現場では犠牲がないのかも調査しないと比較ができません。今後調査の取り組みを予定していますので、ご協力よろしくをお願いします。

Q25.日本では太陽光発電は発電量が不安定なため、安定して発電できる火力発電による調整が必須と聞きました。蓄電池を設置されない場合、どのくらい化石燃料の節約をすることができるのでしょうか。

(参考:資源エネルギー庁HP)

A25.参考資料としてご提示いただいたサイト内に「再生可能エネルギーの導入によって、火力発電の稼働率自体も、低下する可能性があります」と記載があります。どのくらいかは未計算ですが、太陽光で発電した分は化石燃料が節約されると認識しています。



Q26.パソコンは外部電源がないと機能しないため蓄電池がないと停電時は太陽光発電されてもほぼ使えないそうですが、どの程備災とお考えでしょうか。

A26.普段は外部電源で稼働しているパソコンですが、非常時には太陽光発電の電気で稼働すると聞いており、備災に非常に役に立つと考えています。ただし、蓄電池がない状況では冷凍庫・冷蔵庫を長時間運転するほどの発電量は見込めませんので、通信手段の確保やパソコンの起動程度を想定しています。

Q27.太陽光パネル、パソコン、蓄電池などはリサイクルや処分が難しいと聞きますが、数十年後に大量の廃棄物を次世代に押しつけることにならないでしょうか。

A27.次世代に「なぜ太陽光パネルをつけたのか」と言われること、逆に気候変動が進む中「なぜ太陽光パネルをつけなかったのか」といわれること、両方を考え、いまの理事会として責任を果たすことになるのは太陽光パネルをつけることであり、それにむけては最大限調査と議論、よりよい選択を行おうと決めました。

Q28.これまで太陽光発電推進側の学習会をされているように思われます。反対側の意見の学習会はされないのでしょうか。

A28.推進側、反対側という意識はなく、必要と思う学習会を開催しています。チームオーブの木主催では反対意見をお持ちの講師を招いての学習会も開催されています。

第20回通常総代会にお寄せいただいた主なご意見への回答

Q29. 地球は温暖化していますが、人為的に排出される二酸化炭素による影響は僅かであるという意見もあります。基本的に地球が自然現象として温暖化しており、気温上昇に伴い、海洋に溶けていた二酸化炭素がより多く大気中に排出されたという意見についてはどのようにお考えでしょうか。

A29. こちらをご参照ください。

『地球温暖化懐疑論批判』(2009)P32



Q30. 「自然エネルギーによる発電量増加は、脱原発に繋がる」と考える根拠は何でしょうか。国は「脱原発に貢献する」として原発と再エネを同等に推進の姿勢ではないでしょうか。

A30. そのような国の姿勢に対しては憂慮しています。コープ自然派奈良の脱原発の姿勢は揺らぎません。自然エネルギーの発電量が増えれば、原発で発電する必要がなくなるので脱原発に繋がると考えています。

Q31. 12/3理事会で太陽光パネル設置決定とありますが、理事会審議事項のどの事項になりますか。

A31. 12/3は設置の方向性を決定したのであり、決議事項としては扱っていません。誤解を招く表現をしてしまい申し訳ありません。実際に設備や業者、それにともなう費用等を具体的に決定する際に決議事項として審議します。

Q32. 現在日本にある全ての車をEV車にする場合、原発なら10基、火力なら20基の発電所の増設が必要とトヨタ会長の発言もありますが、バッテリーや電磁波の問題もあり、どのようにお考えですか。

A32. コープ自然派奈良が将来的にEV車を導入することがあれば、前提として再生可能エネルギーで発電した電気を使える場合を想定しています。今後ガソリン車が販売されなくなる状況も考えられますので、社会状況を見ながら判断していきたいと思っておりますが、現時点では具体的な計画はありません。

Q33. 気候変動が深刻化し、もはや気候危機の状態です。新センターの省エネと創エネ(太陽光発電&蓄電池など再生可能エネルギー導入)は長期に渡り脱炭素し続けることができます。脱炭素と脱原発を目指してほしいです。

A33. 2022年アピールとして環境基本政策策定にむけての思いを宣言しました。脱炭素と脱原発を目指して取り組んでいきます。

◆第3号議案

Q34. 理事選出について更新も含めて個別に投票できるようにしてほしい。新任の方は理事に着任することへの想い、重任の方は目標と実績など、おひとりおひとりの顔が見える資料がほしいです。

A34. 役員選任規約第9条に則って一括採決としています。候補者ひとりひとりの顔が見える資料は、次回総代会の資料として作成します。

◆資料集その他

Q35. 総代会の出欠確認について、オンラインでも回答できるように整えてほしい。

A35. 法令等を確認します。

Q36. 商品の欠品案内は「申し訳ありません」でなく「ご協力ご理解おねがいします」が良いのではないかと思います。組合員はお客様であると同時に、協力していくメンバーだと思うので。

A36. ありがとうございます。届く前提で予定を立てておられる方に迷惑をおかけしないよう欠品率を下げる努力を続けるとともに、農産物は工業製品ではないので自然に左右されるものであるという組合員の理解を広げていけるよう進めていきます。

Q37. 食材セットのタレを個別で販売してほしい。

A37. 食材セットならではの商品なので個別販売は難しいです。ただ、ロットの関係で賞味期限が近づいたタレをオンラインで販売する場合がありますので、その際はぜひご利用ください。

Q38. 分づき米を販売してほしい(1分、2分、3分など)。

A38. 需要と供給の問題で難しいそうです。家庭用の精米機を販売しておりますので、ご家庭で精米していただくと、精米したのお米を食べられてより良いかと思っておりますがいかがでしょうか。

以上です。ご意見ありがとうございました。